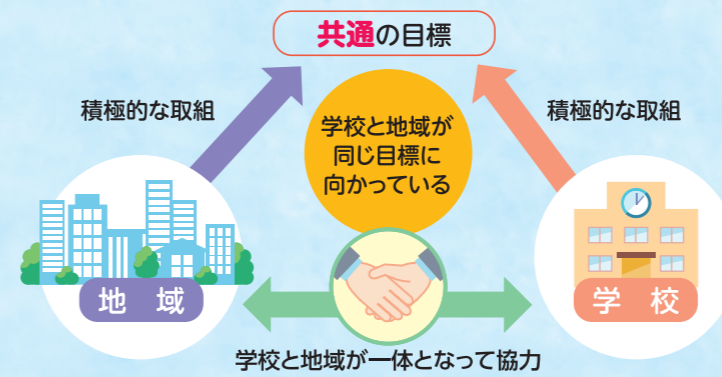


地域とともにある学校 を目指して



学校と地域がパートナーとなることで…



地域と学校が連携し、協働する「コミュニティ・スクール」を、令和6年度にすべての小中学校に設置する予定です。コミュニティ・スクールの設置により、地域と学校が、より顔が見える関係になり、子どもたちの学びや体験が充実します。また、保護者や地域住民が学校運営や教育に関わることは、地域の活性化につながります。

すでに設置されているコミュニティ・スクールの取り組みを紹介します。

☎指導課 ☎(082)420-0976

福富小学校・中学校

希少な植物ミコシギクを 学校と地域、専門家で守る

スローガンに沿った活動の一つが、県内では福富町内しか自生していないとされる「ミコシギク」の保全活動。

かつて群生していたミコシギクは、鹿に食べられるなどして絶滅の危機に直面しています。これではいけないと、学校からの依頼を受け立ち上がったのが、東広島市自然研究会や広島大学総合博物館のメンバーなどの専門家たちです。令和元年からは、30年以上ミコシギクを観察している広島大学技術センターの塩路恒生さんと生徒が一緒になり、周囲にフェンスをめぐらしたり、生育データを取ったりするなどの保全活動を行ってきました。



保全活動は、「総合的な学習の時間」の一環で行われており、現在中学1、2年の4人が担当。この日は生徒からの提案で、ミコシギクの種の採取や、周辺の草刈りが行われました。



今後は、地域の人も巻き込んで保全活動がてきたいね。



土地管理者の泉 忠文さん

今後ミコシギクの保全について、学校や地域と連携していきたいです。



広島市植物公園 技師 山本 晃弘さん



広島大学技術センター 技術専門員 塩路 恒生さん

学校運営協議会委員 世戸 もと子さん

中谷 成男校長

地域のサポートが 子どもたちの経験や自信に

塩路さんは「ミコシギクが生育する湿地には、他にもさまざまな動植物が暮らしています。福富町の環境を知り、守る活動は、子どもたちの心に残り、次の世代へと伝えてくれると思います」と力を込めます。

学校運営協議会委員として子どもたちに関わる世戸もとさんは「ミコシギクのように、地域のシン

ボルがあると、子どもや地域の人の心が一つになりますね」と話してくれました。

「福富町は、子どもたちが何かしたいと言えば、誰かが手をさしのべてくれる環境が整っています。そのパイプ役となるのが、学校運営協議会です。皆さんのサポートは、子どもたちの大きな経験や自信につながっています」と中谷成男校長は語ります。

高美が丘小学校・中学校

地域と学校をつなぐ

地域と学校の関係づくりをサポートするのがコミュニティ・スクール推進員です。学校運営協議会とともに地域と連携しながら、教育環境の充実に取り組んでいます。



生徒会長 松本 琉依さん



コミュニティ・スクール推進員 丸山 光弘さん



地域の人が、あいさつ運動に立つ5・6年生にジャンパーを寄贈

市内の小中学校としては比較的历史が浅いため、地域とのつながりを深めようと令和2年に小中学校合同の学校運営協議会を設置しました。学校運営協議会は、保護者や地域住民などで組織され、目指すのは「地域と学校の協働」。児童会・生徒会やPTAと資源回収を行ったり、門松飾り付けやとんどの伝統文化の継承に取り組んだりしています。

子どもが卒業しても ずっと学校に関わりたい

「学校は地域の核であり、地域に支えられていると強く感じます」と語る山下紀子さん。PTA役員を務めつつ、学校運営協議会設置と同時に委員となり、学校運営協議会とPTAとの橋渡しのほか、事業全般に関わっています。毎週月曜日のあいさつロードには欠かさず参加し、ほかの曜日も通学する子どもたちに自宅前で声掛けをしています。「子どもが卒業しても、地域の一人として学校に関わっていきけるのがうれしい」と語ってくれました。



学校運営協議会委員 山下 紀子さん



みんなが地域の人にもあいさつをするようになりました。



児童会長 横川 美羽さん



あいさつ委員長 山本 夏輝さん

相手の目を見て、相手に伝わる声で、笑顔であいさつ!

小中一貫特認校へ 福富小・中学校

福富小・中学校では、「異学年交流」や「探究的な学習」などを中心に、地域性を生かした小中一貫教育ならではの特色ある教育課程を実施しています。自然豊かな福富で、心豊かに学ぶことを通して、児童生徒の「生きる力」を育てています。

東広島市では、令和5年4月から、福富小・中学校を「小中一貫特認校」とします。小中一貫校で学びたいという児童生徒に対して、通学区を制限せず、市全域からの就学や転学が可能になります。

特認校へ就学するためには、次の条件を全て満たす必要があります。

- ①児童生徒が東広島市内に居住していること
- ②特認校の教育活動に賛同し、協力できること
- ③保護者の責任と負担において、児童生徒を通学させることが可能であること
(通学に関して、保護者による送迎や路線バスの利用などは保護者の責任と負担とする)
- ④原則として、卒業するまで就学すること

今後のスケジュールは次の通りです。

令和5年1月～ 広報活動、学校見学、募集スタート
令和5年2月～ 入学手続
令和5年4月 受け入れ開始

詳しくはお問い合わせください。
☎学事課 ☎(082)420-0975

心のサポーター 三ツ城小

子どもや保護者からの教育相談に応じる「心のサポーター」は、全小中学校に配置されています。市の校内特別支援教室（SSR）設置校では、登校しにくい子どもたちに元教員たちが登校や学習の支援をしています。



中西 秀道さん
三ツ城小学校には、令和2年度にSSRが設置されました。SSRでは、子どもの主体性を尊重し、一日の予定を自分で決めてもらいます。一人一人の思いを受け止め、子どもたちの居場所と成長できる場所になるよう、担任の先生と連携。子どもが教室へ行く時間が増えていくのが、何よりもうれしです。

学校司書 志和 中

生徒に本を好きになってほしいと願い、イベントの開催や、図書館の本のディスプレイなど工夫を凝らしています。現在は、「先生のおすすめ図書」を展示し、生徒から好評です。「調べ学習」の授業では、担当の先生と連携し、志和中学校の図書館や公共図書館から参考資料を準備します。



白井 幸江さん
生徒たちの興味を引く幅広いジャンルの本をそろえるほか、生徒たちの希望に合わせた本を紹介することも。本と向き合うだけでなく、生徒への声かけや会話も大切なことだと思っています。

地域のサポーター 高屋東小

高屋東小学校の6年生は、平成21年度から毎年、歌や合奏、和太鼓などで地域の歴史、文化を総合的に表現する「絆」を上演しています。その中の一つ、白市歌舞伎は、かつて芝居小屋「長栄座」で演じられていた歌舞伎を「白市の文化を考える会」が復活させたもの。児童は6月から週2回、同会の天野照秋さん、大月勝之さんたちから歌舞伎の指導を受けています。本番のメークや着付けはPTAや地域の皆さんが担当。「絆」に登場する神明様（しんめいさん）は「長寿会」の皆さんが飾り付けるなど、多くの人に支えられています。



子どもたちは本番で絶対失敗せんけすていよ。

左から、向蓬 優教諭、水岡 満校長、天野 照秋さん、大月 勝之さん

地域学校協働活動 推進員 木谷小

定年退職を機に、地域の人たちに誘われ地域活動を始めました。その中で小学校とのつながりが深まり、地域学校協働活動推進員を務めています。

木谷小学校は小規模ゆえの良さを生かし、目の行き届いた教育がなされています。コミュニティ・スクール推進員を中心に、地域とつながりを持っているのも特徴です。安芸津町内のカキ養殖場や工場、寺院などを児童が訪問し、地域の人や産業、文化に触れることで、地域愛が自然と育まれています。地域の住民が「先生」として学校に向いたり、ボランティアとして関わったりすることで、地域と学校が一体化。住民は子どもたちから元気をもらい、子どもたちは郷土を誇らしく思う、学校を核とした地域づくりがなされています。



尾首 豊さん

私は定年後に地域デビュー。地域活動は何歳からでも始められると思います。

みんなの学校はみんなのでつくる

教育補助員 松賀 中

「教育補助員」は、保護者や先生と連携しながら、特別な配慮や支援が必要な児童生徒の学校生活や学習の補助をします。個々の学びの状況に応じてサポートするほか、体育や音楽などさまざまな授業に付き添います。生徒が学校行事や学習、部活動ががんばっている姿に無限の可能性を感じ、「生き生き力」を育む手伝いができていることにやりがいを感じています。



福嶋 富美さん

部活動指導員 向陽 中

「部活動指導員」は、顧問の負担軽減と、生徒の活動しやすい環境づくりを担っています。コート整備や草取り、時にはボール探しもします。生徒が好成績を残すのはもちろん、部活動を通じてルールやマナーを守り、あいさつができるようになるなど、心の成長を感じることが一番の喜び。部活動は、人間力を高めるところだと思っています。そして、私にとって生きがいです。



水越 章さん

学校を中心とした地域づくり 造賀小

高屋町造賀地区には20以上の地域住民団体があり、地域の活動が盛ん。最も長い歴史を持つのが、昭和34年に誕生した「造賀学園同窓会」です。保育所から高校までの卒業生、保護者、地域の住民が会員です。青少年育成を目的とした「造賀を愛する会」も発足して30年以上。これらの団体が、小学校の教員やPTAと共に活動を続けてきました。特に盆踊り大会と、区民対抗バレーボール大会は、同窓会の高校2年生にとって、当番幹事を務める「地域デビュー」行事。この2日間のために帰省する人もいほど盛り上がりがあります。我々も楽しみながら、「いつか帰りたくなる」ふるさと造賀を守っています。



区民対抗バレーボール大会の様子



造賀地域センター 高木 克己センター長
造賀を愛する会 渡辺 高守会長
造賀地区自治協議会 上田 昇会長

チームとしての学校に向けて

子どもたちは、多様な価値観や経験をもつ人と接したり議論したりすることで、より厚みのある経験を積むことができます。これは、本当の意味での「生きる力」を身に付けることにつながります。そのため、「チームとしての学校」が求められています。

現在、学校では、教員だけでなく、子どもたちの豊かな学びと経験を育むために多くの人が学校教育に携わっています。

教育に対する熱意があり、チームの一員として学校を支援する人を求めています。

学校教育に関心のある人や眠っている資格を生かしたい人は、お気軽に指導課までご連絡ください。

問 指導課
☎(082) 420・0976

